

令和8年度 宮の丘中学校「学ぶ力」育成プログラム

学校番号：37009

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

「学ぶ力」	
成果	課題
◇全国学力・学習状況調査の生徒アンケートでは、「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができていますか」の項目で肯定的な回答をした生徒の割合が高かった。自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決することに前向きな姿勢を示していると考えられる。	◇同アンケートでは、学習のためにICT機器を活用する生徒の割合が、学習に関する他の項目よりも低い傾向にあった。 ◇「学び方を考え、工夫する」ことの手立ての1つとして、ICT機器の活用を促し、定着させていく必要がある。
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題	
◇同アンケートから、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」「友達関係に満足していますか」の項目で肯定的な回答が多く見られた。このことから、他者を尊重し、学び合い深め合う土壌は形成されていると考えられる。授業や学級活動、各種学校行事を通して、より様々な人との関わりをもち、協働してよりよく学校生活を送られるような場面を意図的に設定することで、相互承認の機会が増え、「学ぶ力」の基盤がより強固なものとなると考える。	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

他者との対話を通して意見を交わし、多様な考えを理解・尊重しながら共に学ぶ力

取組	課題探究的な学習の推進 に向けて	自主的な活動の充実 に向けて
	(1) 定期的な教科会の実施による、よりよい授業への工夫 (2) 総合的な学習の時間との関わり →3年間を通した活動の見通しと、生徒の実態に合わせた活動内容の工夫 (3) 校内研修等を通して全教職員による共通理解を深める	①よりよい学級集団づくりのための学級活動の充実 →主体的な活動場面を設定し、生徒が自己有用感や達成感を感じられる活動の展開を工夫 ②さっぽろっ子サミットとの関連を図った活動の推進 ③生徒会（書記局）主導の意見箱の設置
「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICTの活用について		
◇適切なタイミングでGoogleFormsを活用することで、丁寧に生徒一人一人の考えを把握したり、意見を学級や学年集団で共有することで、学習の定着や深まりを図る。 ◇様々な学習場面において、ICT機器の活用を含めた多くの手立て（手段）を提示することやそのメリット・デメリットの理解を深めることで、学習者自身が考え選択する場面を設定する。		

<本プログラムの実行に向けて>

